

「佐々木隆興・吉田富三がん研究募金」(略称：がん研究募金) へのご寄付のお願い

公益財団法人 佐々木研究所
理事長兼附属杏雲堂病院院長 中村 俊夫
附属研究所長 関谷 剛男

「佐々木研究所」の歴史は、明治15年(1882)、佐々木東洋により神田駿河台の地に設立された「杏雲堂醫院」にまで遡り、第2代院長佐々木政吉が自邸敷地内に作った研究室が研究所の前身です。第3代院長佐々木隆興により、昭和14年(1939)に財団法人「佐々木研究所」が申請・認可され、その後、杏雲堂醫院(現・杏雲堂病院)が財団に寄付されて、研究所と病院とからなる財団法人「佐々木研究所」(理事長佐々木隆興)の形となりました。

佐々木研究所では、これまで基礎・臨床医学の分野において様々な研究を行ってきました。吉田肉腫や腹水肝癌の樹立、それらを用いての制癌剤の開発や、近年では疾患モデル動物無アルブミンラットの樹立やその特性の解明などが、国際的に広く知られています。なかでも佐々木隆興と、第2代研究所長吉田富三による「化学物質の経口投与によるラット肝癌の発生」は、化学物質により動物臓器に癌を発生させた世界最初の成功として特筆される研究成果です。佐々木・吉田の両名は、この研究での共同受賞のほか、それぞれ独自の研究で日本学士院恩賜賞を二度に渡って受賞し、それらの業績により共に、文化勲章を授与されています。

平成18年度からは、時代の推移に応じ、研究の軸足を基礎研究から臨床研究に特化した活動に移し、附属杏雲堂病院の医療従事者を兼任研究員とした、診断・治療に資する研究を行ってきました。平成24年4月、附属佐々木研究所、附属杏雲堂病院、附属湘南健診センターを研究実施施設とする医学研究機関としての公益財団法人佐々木研究所への移行が認定されました。「がんその他の疾患の予防・診断・治療の研究開発を行い、医学の進歩並びに人材の育成を図り、より良い医療の推進、普及に努め、以って国民の健康増進に寄与すること」を定款の目的に定め、医学研究機関としての機能を果たす努力をしています。この目的に即し、研究所においては、実験を伴う医学研究を再開することになりました。杏雲堂病院、湘南健診センターの医師をはじめとする医療従事者が臨床現場で発掘した、がんをはじめとする疾患の予防・診断・治療に資する研究課題に対し、佐々木研究所ならではの答えを出してゆきます。がん研究としては、「がんと共存を目指す研究」を展開してゆきます。順天堂大学との研究連携のもと、動物実験施設を整備し、動物実験も再開します。

これらの研究遂行には多くの研究資金が必要であり、文部科学省、厚生労働省や各種財団などからの研究助成金の獲得に務めてきております。また、これまでも当法人の趣旨にご賛同頂いた皆様方から広く研究寄付金を頂戴してきております。

本募金は、吉田富三生誕 100 年（加えて吉田肉腫発見 60 年、没後 30 年）の平成 15 年に、現在の名称に改めて、ご厚意を受けさせて頂いております。この度、がんをはじめとした疾病に関する医学研究を遂行して行く研究機関としての、公益財団法人佐々木研究所へ移行に伴い、改めて、皆様方からの浄財を有意義に使わせて頂きたいようお願い申し上げます。

皆様方におかれましては、何卒当財団の趣旨をご理解いただき、これまで同様のご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

なお、当公益財団法人は、特定公益増進法人として、寄附金優遇措置の対象となり、ご寄付を頂く場合、法に定める優遇措置を受けることができます。（所得税法 第 78 条第 2 項第 3 号、所得税法施行令 第 217 条三、法人税法 第 37 条第 4 項、法人税法施行令法 第 77 条三）

【寄付金申込先】 公益財団法人「佐々木研究所」 事務局
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2-2
電話： 03（3292）8092
ホームページ：www.sasaki-foundation.jp



附属佐々木研究所



佐々木隆興と吉田富三
(昭和 27 年撮影)